

# 研修便り



高知市教育研究所教職員研修班  
令和3年8月31日発行 No.151

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 情報教育担当者研修会

令和3年6月22日（火）実施

対象：高知市立学校の情報教育担当者又は代表者1名（必須）

**概要** 電子黒板、1人1台端末等のICT機器の効果的な活用や情報教育に関する指導の充実のために、情報教育担当者として必要な資質の向上を目指す。

### 研修Ⅰ 「情報モラル教育について」

講師：少年補導センター 広瀬 貴大 補導教員

～情報モラル教育のゴール～

フィルタリングに頼らなくてもネットのトラブルに対処できる「心」と「知恵」を身に付け、この場面でどう行動するべきか正しく判断できる。



令和2年度小6（現中1）	
休日5時間以上使用	31.0%
フィルタリングあり	27.6%
家庭のルールを決めていない	48.2%
ゲームに課金した	28.3%

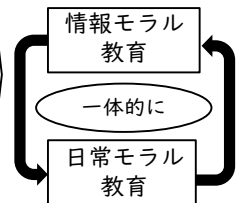
（児童・生徒へのアンケート結果より）

#### はまりやすい落とし穴

- ・ eスポーツとしてのゲームという捉え方
- ・ SNSにおける肖像権、著作権、人権の侵害
- ・ 知らない人との出会いは増加傾向にある
- ・ 自画撮り被害の80%は中高生（R2年度）
- ・ ネットいじめ

#### 家庭や学校で

- ・ 伝える授業から考える授業へ
- ・ ルールを守る態度や相手を思いやる気持ちの育成
- ・ 大人が正しく導くことが重要である



#### 【受講者の感想】

- ・ デジタルの便利さ以上に子どもたちとのアナログの関係づくりが大切であることを念頭に置き、行動したい。
- ・ 日常のモラル教育や道徳、人権教育を充実させていくことが大切であると分かった。

### 研修Ⅱ 「1人1台端末を授業で活用しよう」

講師：学校環境整備課 高畑 将樹 指導主事

「GIGAスクール構想」の実施により、GIGAタブレットが整備された。ICT活用は、子どもたちの反応を見ながら進めていくことが大切。「あえて使う」ことで、デジタルでしかできないことが分かってくる。



- Google Workspace for Educationのソフトウェア体験  
オンライン上で先生と児童生徒をつないで、双方向のやり取りができる。



Google Classroom  
直接児童生徒と交流して課題や提出物の管理ができる。



Google ドライブ  
インターネット上にファイルの保存、編集、共有



Google フォーム  
アンケートやテストの作成、集計結果のリアルタイム反映



Google ドキュメント  
オンラインで文書作成  
音声や手書きで入力できる

- ロイロノート  
教材配付、回答の一覧表示、意見の集約ができる。
- ピクチャーキッズ  
テンプレートを選択し、新聞や日記等を作成できる。

GIGAタブレットのブックマークには、活用事例や情報等を発信することを目的とした「高知市立学校ICT活用ガイド」が保存されています。

#### 高知市立学校ICT活用ガイド



#### 【受講者の感想】

ピクチャーキッズやロイロノートをパンフレットで読んで取り組み始めたところだったので、実際に使いながら説明を聞いたことで、より理解することができた。使用までになかなか踏み切れない先生方もいると思うので、学年間や学級間で差ができないよう、管理職とも相談・連携し、推進していきたい。

具体的なICT機器の操作方法については、情報教育研修会（教育研究所）で扱います。

- ・ 具体的なGIGAタブレット活用について、10月25日（月）15：45～16：45
- ・ 「Google Meet」の活用について、10月12日（火）15：45～16：45、11月9日（火）15：45～16：45に開催予定です。ぜひご参加ください。

「学習指導要領を踏まえた指導と評価の在り方」

講師：鳴門教育大学 佐藤 美智子 准教授



外国語活動・外国語科の授業づくりのポイントは？

外国語活動・外国語科の授業において、  
【変えてはいけないこと】と【変えなければいけないこと】があります！



【変えてはいけないこと】

ことば（こころ）の教育

～同じ言葉でも状況によって、受け取る側の気持ち（感情）も変わってくる～



- ★ ことばに心をのせる体験を！  
子どもたちの「言いたい」「聞きたい」「書きたい」「読みたい」気持ちを大切に
- ★ 子どものそれぞれの思いがのるような授業を！  
自分の気持ちをのせた言葉は本物になる
- ★ 言葉の力の育成・心の土台づくりを！  
人と話したい、自分のことを伝えたい、相手のことを知りたい、という「情意面」の育成が小学校外国語教育の大きな役割

【変えなければいけないこと】

言語活動

～言葉は使わないと使えないようにならない～

＜言語活動を通して資質・能力を育てる＞

外国語活動・外国語科における【言語活動】とは、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動

第1時	第2時	第3時	第4時
言語活動（毎時間、取り組む）			

- ★ 目的・場面・状況に応じて言葉を使うこと！  
既有的知識・技能を適切に活用して考えや気持ちを伝え合う
- ★ 練習・疑似体験・言語活動のバランスが大切！  
使いながら学ぶ、学びながら使う（リバース）



【言語活動を支えるもの】  
考えや気持ちを伝え合う要素がないチャンツやゲームなどは「練習」



どうやって評価するの？

先生方にも【言語活動】の体験してもらいました。



- ★ それぞれの評価方法の特性を踏まえ、多様な方法で多面的・多角的な評価をすること！

【評価の方法】

- ◆ 行動観察
- ◆ ワークシート、作品等
- ◆ 児童による評価（振り返りシート等）
- ◆ パフォーマンステスト
- ◆ ペーパーテスト など

どういう状況がA・B・Cなのか、【ルーブリック】に沿って評価する

【ルーブリック】  
学習到達状況を評価するために、評価する項目と到達度を具体的な姿で記述した尺度（評価基準）を表にしたもの。

言葉は目的を達成するために使うということを再確認しました。



- ★ できるようになってから見取り、評価をすること！  
どの子もできるようになることを目指して継続的に支援・指導をし、指導過程で残した記録も参考にしながら、総括する際は、学期末や学年末の姿を重視したい。

【受講者の感想】

- ・ 「心が動かないと口は動かない」「言葉の意味を理解するには体験が必要」という言葉が印象的だった。自分が思っていることをつたなくとも一生懸命に伝える、相手が伝えようとしていることを精一杯受け止める、それが言葉を学び、コミュニケーションする上で大切なことだと思った。
- ・ 小学校でどのような指導がされているかを知っていないと、中1の指導は、個人差だけではなく「たぶんやっているだろうから」と抜かりが生じたり、書けるだろうと負荷を上げようとするとか全く未学習だったり、「たぶん」で判断してしまうことの危険を感じている。「中学生になって、本格的にかっこよく英語を習うんだ！」という生徒の期待を裏切らないようにしたい。